

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前		垣花 シゲ		所 属		医学部 保健学科
				職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果	
教育	0.40	学部では看護学概論、生活援助看護技術Ⅰ、生活援助看護技術Ⅱ、生活援助看護技術実習Ⅰ、生活援助看護技術実習Ⅱ、フィジカルアセスメント、看護システムと国際看護を担当、生命倫理学をオーガナイズする。フィジカルアセスメントは、おきなわシミュレーションセンターと協働して学生の興味とモチベーションを高める教育を行う。博士前期課程では看護管理学特論、基礎看護特論を担当、保健学研究方法、保健学特論を分担、博士後期課程では国際看護学特論を担当、国際島嶼保健学特論をオーガナイズする。		0.40	設定した目標に到達した。	
研究	0.40	発展途上国における医療従事者を対象とした院内感染対策および感染対策教育に関する研究を継続する。今年度は、科学研究費課題遂行のため、ラオス国の医療従事者と相互病院訪問視察を実施する。また、看護ケアの向上・開発に関する研究を学部学生・博士課程学生に指導し、国内外の学会発表・学会誌等への発表を行う。博士前期課程学生の研究費獲得に関する書類作成指導を積極的に実施する。		0.40	科学研究費課題「発展途上国における多施設参加型ネットワーク構築による院内感染対策」の最終年度に当たり、予定通りラオス国の医療従事者と視察を行い、評価表に基づき評価を実施した。学会発表は看護ケア及び看護教育に関する研究発表を日本看護科学学会で発表した。1題は琉球医学会に投稿中である。また、博士後期課程学生の研究費獲得のための書類作成指導を実施した。チェンマイ大学、ラオス保健科学大学との交流協定に基づいて、協働研究開始に向けての話し合いを実施した。琉球大学ラオス研究会第2回例会を今年度会長として企画運営、タイ、ラオスからの留学生を含めて盛会だった。	
社会貢献	0.10	1. 琉球大学医学部附属病院との教育・研究におけるユニフィケーションの推進を引き続きバックアップし、必要に応じてconsultingを行う。 2. 琉球大学医学会の評議員を担当する。 3. 沖縄県看護協会「認定看護管理者教育運営委員会委員」および研修講師を担当 4. 国立保健医療系大学協議会看護分科会基礎教育委員会委員を担当する		0.05	1. 医学部附属病院とのユニフィケーションの推進を支援し、今年度は附属病院看護部の全国学会発表があった。現在は2つの病棟看護師の研究についてコンサルトしている。 2. 今年度は、琉球医学会評議員、副会長を務め、また、学会誌の査読を担当した。 3. 沖縄県看護協会「認定看護管理者教育運営委員会委員」及び研修講師を担当した。 4. 国立保健医療系大学協議会看護分科会基礎教育委員会委員として活動した。	
管理運営	0.05	医学部・医学研究科・附属病院予算委員会委員、保健学研究科学務委員、保健学科入試委員会委員として、学部・学科の管理運営に貢献する。医学教育企画室講師候補者推薦委員会委員を担当する。		0.05	医学部・医学研究科・附属病院予算委員会委員、保健学研究科学務委員、保健学科入試委員会委員、学位論文資格審査会委員、保健学科将来計画委員会委員として、学部・学科の管理運営に当たった。医学教育企画室講師候補者推薦委員会委員を担当した。	
進路指導	0.05	研究室3年次・4年次、博士前期および後期課程学生の卒業後の進学、留学、就職に関する相談・指導にあたる。履歴書や願書の記載指導、紹介状の作成等をおこなう。		0.05	研究室3年次・4年次、博士前期および後期課程学生の卒業後の進学、就職に関する相談・指導にあたり、履歴書や願書の記載指導を行った。健康状態に問題を抱える学生の支援を行った。	
国際貢献				0.05	保健学科のミッション「国際貢献」の一環として、8月の保健学科学生のタイ国チェンマイ大学との交流について、タイ国への派遣準備、徳明会からの学生旅費の経済的支援、帰国後の報告会実施支援等を行った。1月にはJSTのプロジェクト「さくらサイエンスプロジェクト」で、チェンマイ大学、ラオス保健科学大学、フィリピン大学から学部学生と教員を招聘し、日本の医療保健福祉の紹介及び4カ国の現状と課題を共有した。	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)								
名 前		高倉 実	所 属		医学部保健学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果		
教育	0.25	<p>共通教育科目(健康運動実技)を担当し、全学的教育に貢献する。学部担当科目(疫学、学校保健学、健康教育学、保健統計学)を担当し、専門性を高める講義を行う。大学院博士前期課程科目(学校保健学特論・特演、保健学研究方法2回、保健学特論1回)を担当し、特に保健学研究方法は量的研究の進め方について講義を行う。大学院博士後期課程科目(保健学特別講義3回、健康増進開発学特論)を担当し、疫学的研究方法について講義する。Learning Management Systemを積極的に活用する。卒業論文、修士論文、博士論文の指導を行う。</p>			0.25	<p>共通教育、学部教育、大学院教育について、各々の授業評価は良好であり、目標を達成した。 学部担当科目の「疫学」の講義にLMSのWebClassのテスト機能を使用して、演習問題を掲載し学生に予習復習させるようにした。その結果、本科目の期末試験の平均点は高得点を維持している。また、学部教育「健康教育学」および「学校保健学」においてもWebClassを活用して指導した。さらに、大学院共通科目「保健学研究方法」「保健学特論」の英語教材をWebClassに掲載して復習させるようにした。今年度は4名の卒業論文および1名の修士論文を指導した。</p>		
研究	0.25	<p>研究論文の採択を目指す。同様に関連学会で研究発表を行う。外部資金を代表者として獲得し、応用健康科学に関する研究を学外機関との共同研究として継続する。日本健康教育学会学会誌の編集委員として学会誌を編集するとともに、関連学会学術誌の査読を行う。</p>			0.25	<p>国内英文誌(査読有)に1編(筆頭著者)の学術論文を発表した。 国内和文誌(査読有)に4編(筆頭著者1編)の学術論文を発表した。 国際学会(査読有)に3題(招待パネリスト1題)、国内学会に9題(筆頭演者2題)の研究発表を行った。 研究代表者として科研費(B)を獲得した。研究分担者として2件の科研費(B)を獲得した。 日本健康教育学会誌編集委員として5編の編集担当、国際誌1編の査読、国内学会誌の2編(1英文)の査読を担当した。</p>		
社会貢献	0.25	<p>関連学会の評議員として学会活動を積極的に行う。沖縄県をはじめとする行政の各種委員会の委員や研修会講師等を務め、委員会活動に積極的に参加する。</p>			0.25	<p>第27回日本健康心理学会副会長(2014.11.1-2) 関連学会の評議員(日本学校保健学会)、評議員(日本疫学会、日本健康教育学会、日本民族衛生学会)、沖縄県公衆衛生学会幹事 沖縄県福祉保健部「健康おきなわ21(第2次)」分野別検討委員会委員長 沖縄県福祉保健部「健康おきなわ21(第2次)」アクションプラン総括委員会委員 独立行政法人日本学術振興会委員会専門委員 沖縄振興特別推進交付金事業「健康行動実践モデル実証事業」のコアメンバーとして、報告会、地域健康づくりセミナー、学校・地域説明会および学校・地域調査等を実施した。</p>		
管理運営	0.20	<p>琉球大学疫学研究倫理審査委員会をはじめとする全学的委員会、学部内各種委員会に積極的に参加する。</p>			0.20	<p>琉球大学疫学研究倫理審査委員長として運営・審査に当たった。</p>		
進路指導	0.05	<p>学生や大学院生の進路について積極的に相談する。特に養護教諭を目指す学生のために教育委員会や学校教員から情報収集する。大学院生の場合、将来の進路に役立つようなTA活動を行う。</p>			0.05	<p>沖縄県教育庁の指導主事らと面談した。大学院生をTAとして活動させた。これらの教育研究支援活動への参画は、大学院生自身の実務能力や研究能力を高めるのに大変役立ったと思われる。</p>		
計	1.00	<p>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</p>			1.00	<p>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</p>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		加 藤 種 一		所 属		医学部 保健学科		職 名		助教	
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定				業務 ウエイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果				
教育	0.30	学部担当科目は、保健統計を担当し、学士教育プログラム及びシラバスの教育目標、内容を満たす講義・実習を行う。特に保健統計学では、表計算アプリケーションによるデータの統計処理に重点を置く。共通教育では、運動・スポーツ科学演習(ゴルフ)を前後期で3コマ担当し、学士教育プログラム及びシラバスの教育目標、内容を満たす教育を行う。				0.30	学部担当科目は、保健統計を担当し、学士教育プログラム及びシラバスの教育目標、内容を満たす講義・実習を行った。特に保健統計学では、表計算アプリケーションによるデータの統計処理にも基礎的な部分では十分クリアした。共通教育では、運動・スポーツ科学演習(ゴルフ)を前後期で3コマ担当し、学士教育プログラム及びシラバスの教育目標、内容を満たす教育を行った。				
研究	0.28	沖縄県内、中学・高校生ゴルファーのスポーツ障害に関する調査をのプレテストの結果を含め質問紙、調査計画を作成し、年度内に調査を実施する。また、日本における現行の生命表と世代生命表の比較研究を行うための資料を収集がほぼ終了したので、データをパソコンに入力、分析を実施する。				0.28	沖縄県内、中学・高校生ゴルファーのスポーツ障害に関する質問紙を、昨年実施したプレ調査を基に作成し調査を実施した。しかし、有障害の数が10人余りと少なく、本年度も継続して調査を実施する計画である。また、某国家機関の職員に、これまで2005年、2010年と「悩みの調査」を実施し結果をまとめ報告してきたので、継続的に本年も実施する。				
社会貢献	0.27	県内国家機関の職員のカウンセリング、メンタルヘルス講習等を行う。湘中央学園浦添看護学校、那覇医師会那覇看護専門学校において、情報科学(非常勤講師)を担当する。沖縄県学生ゴルフ連盟事務局長を務め、沖縄県学生ゴルフ選手権、中・高校生交流ゴルフ大会等の運営にあたる。				0.27	県内国家機関の職員のカウンセリング、メンタルヘルス講習等を行った。湘中央学園浦添看護学校、那覇医師会那覇看護専門学校において、情報科学(非常勤講師)を担当した。沖縄県学生ゴルフ連盟事務局長を務め、沖縄県学生ゴルフ選手権、中・高校生交流ゴルフ大会等の運営した。				
管理運営	0.05	平成26年度の大学入試センターの試験監督、前期或いは後期試験の試験監督等に従事する。				0.05	平成27年度の琉球大学一般試験(数学)の採点委員に従事する予定である。				
進路指導	0.08	琉球大学ゴルフ部の顧問教員を務める関係上、4年生(5名)、3年生(5名)の面接等による進路指導にあたる。				0.08	琉球大学ゴルフ部の4年生(4名)、3年生(5名)の就職に関する面接、情報提供等を行った。その結果、4年生2名は企業に内定し、もう2名は今年の公務員試験を受けることになった。				
その他	0.02	琉球大学ゴルフ部の顧問教員を務める。県内外の大会への選手派遣、またゴルフを通じた人間形成、技術、ルール及びマナーの向上に関し指導する。				0.02	ゴルフ部において、週2回の練習指導を行い、朝日杯日本学生、九州学生ゴルフ選手権等に数名の選手を派遣した。その結果、西日本新聞社杯争奪九州女子学生ゴルフ選手権、麻生杯など、九州女子学生の部4大会で優勝した。また、男子は、2014年九州学生ゴルフ連盟ステップアップ選手権で優勝した。その他県内の第15回学生選手権で団体優勝した。				
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。				1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成27年5月に障に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	大湾 知子	所 属	成人看護学	職 名	准教授
領域	業務ウェイト比(予定)	年度目標設定	業務ウェイト比(実績)	年度末自己点検結果	
教育	0.30	<p>①学部担当科目の目標に照らし実践・研究にむけた看護教育内容を充実する。毎週火曜日8時～9時：泌尿器科病棟、9時～13時迄泌尿器科外来で患者相談や検査、泌尿器関連の看護ケアを行う。大学院生への看護実践教育に活かす。</p> <p>②学生と教員として看護実習指導者と連携して積極的な意見を取り入れ授業と実習指導の評価を行う。</p> <p>③病院と連携して実践教育のできる教育補助者を有効活用し、その質向上に努める。</p> <p>④作成した自己導原マニュアルを看護学生や臨床看護師へ紹介し自己導原の普及に努める</p> <p>【急性期看護実践学・急性期看護実習】</p> <p>術後の医療関連感染性廃棄物取り扱いの見学を取り入れる。急性期看護実践学の授業では、実践に役立つようフィジカルアセスメントやシミュレーション学内演習内容を充実させ執筆や研究論文を授業に反映する。シミュレーション基盤型教育セミナー(FunSim)、FumSimのアドバンスコースの研修を活かし急性期看護実践学の講義に独自でシミュレーション教育を発展させる。</p> <p>【感染看護】</p> <p>実際の病院見学で感染対策の実際を考察する。看護英語文献講読：米国看護師へ文献講読後にプレゼンテーションして学力向上にむける。</p> <p>【研究】</p> <p>⑤研究指導を行い、成人看護学分野における感染看護分野と尿失禁看護分野を学ぶ学生の人材育成を行う。</p> <p>1)在宅における介護支援ボランティア活動を支援するための検討</p> <p>2)入院から在宅にかけて介護日誌を継続していた家族による感染予防行動アセスメントと行動の把握</p> <p>3)自己決定を支援する患者会活動の在り方の考察</p> <p>4)骨盤臓器脱患者の自己管理とケアの検討</p> <p>5)看護実習学生における環境整備の手順作成</p> <p>6)尿失禁女性におけるジェンダーへの取組</p> <p>7)レジオネラ対策</p>	0.30	<p>①学部担当科目の目標に照らし実践・研究にむけた看護教育内容を充実させた。毎週火曜日8時～9時：泌尿器科病棟、9時～13時迄泌尿器科外来で患者相談や検査、泌尿器関連の看護ケアを行ったが、大学院生への看護実践教育に活かすことができなかった。</p> <p>②学生と教員として看護実習指導者と連携して積極的な意見を取り入れ授業と実習指導の評価を行った。</p> <p>③病院と連携して実践教育のできる教育補助者を有効活用し、その質向上に努めた。</p> <p>④作成した自己導原マニュアルを看護学生や臨床看護師へ紹介し自己導原の普及に努めた。</p> <p>【急性期看護実践学・急性期看護実習】</p> <p>術後の医療関連感染性廃棄物取り扱いの見学を取り入れる。急性期看護実践学の授業では、実践に役立つようフィジカルアセスメントやシミュレーション学内演習内容を充実させ執筆や研究論文を授業に反映した。シミュレーション基盤型教育セミナー(FunSim)、FumSimのアドバンスコースの研修を活かし急性期看護実践学の講義に独自でシミュレーション教育を発展させ、シミュレーションセンターで授業を行った。</p> <p>【感染看護】</p> <p>実際の病院見学で感染対策の実際を考察した。看護英語文献講読：米国看護師へ文献講読後にプレゼンテーションして学力向上にむける。</p> <p>【研究】</p> <p>⑤研究指導を行い、成人看護学分野における感染看護分野と尿失禁看護分野を学ぶ学生の人材育成を行った。</p> <p>1)在宅における介護支援ボランティア活動を支援するための検討</p> <p>2)入院から在宅にかけて介護日誌を継続していた家族による感染予防行動アセスメントと行動の把握</p> <p>3)自己決定を支援する患者会活動の在り方の考察</p> <p>4)骨盤臓器脱患者の自己管理とケアの検討</p> <p>5)看護実習学生における環境整備の手順作成中</p> <p>6)尿失禁女性におけるジェンダーへの取組について執筆して著書として2月か3月に発行予定。</p> <p>7)レジオネラ対策を行い原稿論文として掲載された。「当院における院内レジオネラ感染対策部署間連携活動支援システム構築の検討」園重龍太郎、大湾知子、富島美幸、武加竹咲子、久田友治、小出道夫、健山正男、比嘉 太、藤田次郎、環境感染、Vol.30, no.1, 14-21.2015.</p>	
研究	0.30	<p>①琉球大学附属病院職員看護師と共同研究した成果を8月に感染看護学会発表する。地域連携ネットワークの方々と共に研究論文を学会誌へ投稿予定である。平成27年2月日本環境感染学会での研究論文発表する。</p> <p>②第14回日本感染看護学会評議員として学会参加して教え子2人と看護師が研究論文発表する。</p> <p>③平成27年2月の第30回日本環境感染学会評議員、教育施設認定委員として学会での役割を努める。そして環境感染研究論文発表を行う。</p> <p>④関連企業や施設との共同研究を継続し、実社会に応用できる看護の研究開発に努める。</p> <p>⑤専門分野に関連した研究助成「ジェンダー」研究を受け、それに基づき研究活動を展開する。継続研究として平成26年度の報告を行う。</p> <p>⑥日本老年泌尿器科学会に参加して排尿機能検査士講習会を受け役割の継続を行う。 また排尿機能検査士講習会に参加して認定継続を受ける。その際、研究論文発表を行う。</p> <p>⑦レジオネラ感染対策について日本環境感染学会に投稿する。</p>	0.30	<p>①琉球大学附属病院職員看護師と共同研究した成果を8月に感染看護学会発表した。「脳腫瘍術後患者におけるバイタルとアルジネド摂取に関する栄養状態についての検討」、「処置を行う耳鼻咽喉科医師の接触伝播防止策の視点に基づいた経時的行動観察による現状把握」。地域連携ネットワークの方々と共に研究論文を学会誌へ投稿予定である。平成27年2月日本環境感染学会での研究論文発表ではないが、原稿論文として1月に掲載された。</p> <p>②第14回日本感染看護学会評議員として学会参加して教え子2人と看護師が研究論文発表した。「成人看護実習学生の感染防止策を視点にした感染看護実践学の実践」に関する検討」</p> <p>③平成27年2月の第30回日本環境感染学会評議員、教育施設認定委員として学会での役割を努める。そして環境感染研究論文発表として1月に掲載された。</p> <p>④関連企業や施設との共同研究を継続し、実社会に応用できる看護の研究開発に努めている。</p> <p>⑤専門分野に関連した研究助成「ジェンダー」研究を受け、それに基づき研究活動を展開する。継続研究として平成26年度の報告として、本を執筆した題名「尿失禁ケアと女性の身体観－尿失禁ケアをめぐる医療制度の課題－」、2月～3月に発行予定。</p> <p>⑥日本老年泌尿器科学会に参加して排尿機能検査士講習会を受け役割の継続を行った。 また排尿機能検査士講習会に参加して認定継続を受ける。その際、研究論文発表：夜間頻尿に関するアンケート調査結果発表を行なった。</p> <p>⑦レジオネラ感染対策について日本環境感染学会誌にレジオネラ対策を行い原稿論文として掲載された。「当院における院内レジオネラ感染対策部署間連携活動支援システム構築の検討」園重龍太郎、大湾知子、富島美幸、武加竹咲子、久田友治、小出道夫、健山正男、比嘉 太、藤田次郎、環境感染、Vol.30, no.1, 14-21.2015.</p>	
社会貢献	0.30	<p>①感染制御学大学院協議会会員として協議会の役割を努める。</p> <p>②沖縄県臨床科学研究財団学術委員として学外の審議会に参加に努める。</p> <p>③沖縄県ICNネットワーク勉強会代表世話人として県内の感染管理認定看護師や感染対策看護師そして安全管理対策看護師とともに連携して琉球大学医学部臨床研究棟で勉強会を1年に3回開催、第9回沖縄県ICNネットワークセミナーを開催し沖縄県感染看護の質向上に努める。</p> <p>④沖縄県インフェクションコントロール研修会の代表世話人として、5回記念を開催し県内医療従事者の感染対策資質向上に努める。</p> <p>⑤沖縄県尿失禁勉強会代表世話人として県内の尿失禁看護の専門職者と研究会や勉強会、琉球大学公開講座4月19日(久米島町)、5月18日(沖縄県立博物館・美術館)、6月22日(ほしぞら公民館)、6月29日(三原区公民館)、11月1日(宮古島)、排尿機能研究会6月6日(ロアールホテル)を開催する。</p> <p>⑥関連施設との共同研究の成果を応用し、社会貢献を行う。</p> <p>⑦他大学・専門学校や医療施設の非常勤講師を務め、地域社会連携を深める。</p> <p>⑧県内で感染看護や尿失禁看護に関する市民公開講座や琉球大学公開講座を実施して、「自己導原マニュアル」を全国に紹介して啓発活動を行う。</p> <p>⑨沖縄県看護協会との連携を深め、講義をおとして看護や介護の質向上に取り組み、「感染管理認定看護師教育課程教員委員・入学試験委員会」として看護協会会長から任命され平成26年度に教育課程開講する。</p> <p>⑩琉球大学附属病院での看護師としての看護実践、保健科学としての教育、それを基盤として統合した研究「処置を行う耳鼻咽喉科医師の接触伝播防止策の視点に基づいた経時的行動観察による現状把握」をまとめ、看護部研究会、琉球医学会、保健科学研究会で成果を発表し、いわゆるユニフィケーションモデルを構築して社会に貢献し研究論文にまとめる。</p> <p>⑪琉大病院介護支援ボランティアの活動支援プロジェクトを継続して行い、琉大病院の患者や職員そしてボランティアを支援する。</p>	0.30	<p>①感染制御学大学院協議会会員として協議会の役割を努めている。</p> <p>②沖縄県臨床科学研究財団学術委員として学外の審議会に参加に努めている。</p> <p>③沖縄県ICNネットワーク勉強会代表世話人として県内の感染管理認定看護師や感染対策看護師そして安全管理対策看護師とともに連携して琉球大学医学部臨床研究棟で勉強会を1年に3回開催、第9回沖縄県ICNネットワークセミナーを開催し沖縄県感染看護の質向上に努めた。</p> <p>④沖縄県インフェクションコントロール研修会の代表世話人として、5回記念を開催し県内医療従事者の感染対策資質向上に努めた。</p> <p>⑤沖縄県尿失禁勉強会代表世話人として県内の尿失禁看護の専門職者と研究会や勉強会、琉球大学公開講座4月19日(久米島町)、5月18日(沖縄県立博物館・美術館)、6月29日(三原区公民館)を行った。また6月22日(ほしぞら公民館)と11月1日(宮古島)で琉球大学サテライトキャンパスを2回開催した。排尿機能研究会6月6日(ロアールホテル)を開催した。</p> <p>⑥関連施設との共同研究の成果を応用し、社会貢献を行っている。</p> <p>⑦他大学・専門学校や医療施設の非常勤講師を務め、地域社会連携を深める。</p> <p>⑧県内で感染看護や尿失禁看護に関する市民公開講座や琉球大学公開講座を実施して、「自己導原マニュアル」を全国に紹介して啓発活動を行っている。</p> <p>⑨沖縄県看護協会との連携を深め、講義をおとして看護や介護の質向上に取り組み、「感染管理認定看護師教育課程教員委員・入学試験委員会」として看護協会会長から任命され平成26年度に教育課程開講した。「平成27年度皮膚・排泄看護認定看護師教育課程」の専任教員として看護協会会長から任命され、その準備を行っている。</p> <p>⑩琉球大学附属病院での看護師としての看護実践、保健科学としての教育、それを基盤として統合した研究「処置を行う耳鼻咽喉科医師の接触伝播防止策の視点に基づいた経時的行動観察による現状把握」をまとめ、看護部研究会、琉球医学会、保健科学研究会で成果を発表し、いわゆるユニフィケーションモデルを構築して社会に貢献し研究論文として発行予定である。</p> <p>⑪「琉大病院介護支援ボランティア」の活動支援プロジェクトを継続して行い、琉大病院の患者や職員そしてボランティアを支援できなかった。</p> <p>⑫島嶼防災研究センターの委員として、ノーベル賞受賞者天野浩教授の講演会を企画して2月16日と17日に講演会を開催する。その際、「自治体地域住民から発信する防災と感染症対策」と題してシンポジウムで発表する。地元那覇市三原自治会・共心会の支援を受けて祝賀会も開催する。</p> <p>⑬10月に沖縄県産業界まつりで看護学生と一輪「骨盤底筋訓練の普及に努めた。日本コンチネンス協会コンチネンスタナ」に「着の沖排事情-膀胱所など」掲載した。</p>	
管理運営	0.03	<p>①医学部特別管理産業廃棄物管理責任者、医学部廃棄物処理委員会委員として医学部における廃棄物処理方法手順を作成し周知徹底を行う。また、エコアクションに関する取り組みを行う。</p> <p>②琉球大学附属病院感染対策委員会委員、感染対策実務者会議感染対策担当看護師、感染対策室員、感染対策室安全管理リスクマネージャーとして役割を遂行し附属病院における感染対策を行う。</p> <p>③琉大病院における九州厚生局医療監視に対応して院内感染対策・管理を紹介する。</p> <p>④琉大病院における感染対策院内研修会を医療法に遵守して職員が2回出席できるよう開催し職員の質向上に努める。</p> <p>⑤琉大病院介護支援ボランティアの活動支援プロジェクト代表として事務部門とボランティアと連携して諸活動に積極的に参加する。</p>	0.03	<p>①医学部特別管理産業廃棄物管理責任者、医学部廃棄物処理委員会委員として医学部における廃棄物処理方法手順を作成し周知徹底を行った。また、エコアクションに関する取り組みを行っている。</p> <p>②琉球大学附属病院感染対策委員会委員、感染対策実務者会議感染対策担当看護師、感染対策室員、感染対策室安全管理リスクマネージャーとして役割を遂行し附属病院における感染対策を行っている。</p> <p>③琉大病院における九州厚生局医療監視に対応して院内感染対策・管理を紹介した。</p> <p>④琉大病院における感染対策院内研修会を医療法に遵守して職員が2回出席できるよう開催し職員の質向上に努めた。</p> <p>⑤琉大病院介護支援ボランティアの活動支援プロジェクト代表として事務部門とボランティアと連携して諸活動に積極的に参加できなかった。</p>	
進路指導	0.03	<p>①県内外の病院紹介を行い、学生の将来の進路相談に対応する。</p> <p>②卒業研究を受けた既卒者と連携して就職説明会を開催する。</p>	0.03	<p>①県内外の病院紹介を行い、学生の将来の進路相談に対応した。県外から戻ってきた看護系卒業生の再就職について指導した。</p> <p>②卒業研究を受けた既卒者と連携して就職説明会を開催し好評であった。</p>	
診療活動支援	0.04	<p>①琉大病院感染対策室での感染対策担当看護師として活動しており、病院内の感染防止対策を実施している。</p> <p>②看護学実習期間を除き、毎週火曜日に琉大病院泌尿器科病棟と外来で、排尿機能検査士・尿失禁相談看護師として排尿機能障害患者の面談や指導を行い実践・教育・研究のユニフィケーションモデルを構築する。</p> <p>③琉大病院介護ボランティアの活動支援プロジェクトを継続して実施する。</p> <p>④診療活動支援を行い看護教員としての看護実践能力を養う。</p>	0.04	<p>①琉大病院感染対策室での感染対策担当看護師として活動しており、病院内の感染防止対策を実施している。</p> <p>②看護学実習期間を除き、毎週火曜日に琉大病院泌尿器科病棟と外来で、排尿機能検査士・尿失禁相談看護師として排尿機能障害患者の面談や指導を行い実践・教育・研究のユニフィケーションモデルを構築する予定。外來での活動の無い日は、看護師からの相談を受けていた。</p> <p>③琉大病院介護ボランティアの活動支援プロジェクトを継続できなかった。</p> <p>④診療活動支援を行い看護教員としての看護実践能力を養っている。</p>	
計	1.00	<p>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</p> <p>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</p> <p>・「診療業務」に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</p>	1.00	<p>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</p>	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合は、右記にチェックしてください。			<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)				
名前	照屋典子		所属	保健学科成人・老年看護学講座 成人・がん看護学分野
職名			助教	
領域	業務ウエイト比(予定)	平成26年度 年度目標設定	業務ウエイト比(実績)	平成26年度 年度末自己点検結果
教育	0.35	<p>【前期】</p> <ul style="list-style-type: none"> 『緩和ケア論』、『がん看護論』では、シラバス作成を担当し、非常勤講師との調整を行う。 『がん看護論』では、「放射線看護」の講義を担当する。緩和ケア病棟見学実習についても、アドベンチストメディカルセンター（看護部長、緩和ケア病棟部長）との調整を行う。 『急性期看護実習』は、8西、8東、7西病棟での各2週間(5名×4クール)の実習を担当し、学生が受持ち患者への看護実践を通して、周手術期看護に関する知識・技術が習得できるよう指導・助言を行う。また、『成人総合看護実習』では、8西、8東、7西病棟で各1週間(5名×4クール)を担当し、病棟管理やチーム医療の実践について学習できるように師長、リーダー、メンバーとの調整を行う。 【後期】講義では視聴覚教材、グループワークや事例検討、シミュレーション等を取り入れ、学生参加型講義を行う。 『成人看護学』ではシラバス作成、「成人期にある人の健康(概論)」、「生活習慣に関連した成人期の健康障害」成人看護領域における看護理論に関する講義を担当する。 『成人急性期看護』では「術前看護」の講義、シミュレーションを取り入れた演習を担当する。 『看護総合実習』では、全体のオーガナイズ、並びに学生2名の個別指導を担当する。学生がより主体的に自己の学習課題が達成できるよう学生への助言、並びに看護系教員や実習施設との調整を行う。 	0.33	<p>【前期】</p> <ul style="list-style-type: none"> 『緩和ケア論』、『がん看護論』では、シラバス作成担当し、非常勤講師との調整を行った。 『がん看護論』では、「放射線看護」の講義を担当した。緩和ケア病棟見学実習は、急性期看護実習中により参加できなかった。 『急性期看護実習』、『成人総合看護実習』では、耳鼻咽喉科・口腔外科、整形外科、消化器外科病棟において、4グループ(4～5名×3週間、計19名、12週間)を担当した。実習では看護チームと連携・調整を図りながら、学生の受持ち患者とその家族への看護ケア、退院指導等の実践を通して、学生への実習指導を行った。 【後期】 『成人看護学』ではシラバス作成、非常勤講師との調整を行い、「成人期にある人の健康(概論)」、「生活習慣に関連した健康障害」の講義を担当した。担当する講義では、毎回学生に感想シートを提出してもらっているが、講義の中で行う国家試験形式の小テストが好評なので、今後も続けていきたい。 『成人急性期看護』では「術前看護」講義、及び「胃切除術を受ける患者への看護」についてシミュレーション教育を活用した術前・術後演習を担当した。繰り返し演習を授けられることで、学生の反応が徐々に活発になってきたことから学習参加を促進できたと考えた。 『看護総合実習』では、学生全体のオーガナイズ、及び学生3名の実習指導、調整を担当した。学生自身の課題目標に沿って、①心不全患者のリハビリテーション、②整形外科的手術を受ける患者の看護をテーマとした実習を行った。学生から、心臓リハビリ専任看護師による積極的活動への同行、見学、参加や多職種チーム活動の見学を通して、有意義な実習ができたこと好評であった。 『情報科実習』では、講義担当者として、シラバス作成、講義、演習を行い、学期末に成績評価を行った。 当分野の教授が担当する保健学研究科の授業科目「緩和ケア特論」緩和ケア特別実習」の中で、「意思決定支援(コミュニケーション)」、「高齢者へのエンド・オブ・ライフ・ケア」、「喪失・悲嘆ケア」に関する講義・演習を担当した。
研究	0.35	<ul style="list-style-type: none"> *昨年度より、研究代表者として、科研/基盤C「地域住民ボランティア参加型の緩和ケアネットワークモデルの構築」に取り組み、緩和ケアボランティアの養成プログラム作成に向け、ホスピスボランティアを対象としたインタビュー調査、ならびに県内の病院ボランティア養成講座の視察による情報収集を行った。その内容をまとめ、第29回日本がん看護学会学術集会で発表を行うことを計画している。また、今年度は昨年度の成果を踏まえ、アックジョリサーとして、研究協力施設である友愛会南部病院緩和ケア病棟との連携による緩和ケアボランティア養成講座の開催を実施する。 *当分野の教授が代表者を務める基盤C「若年女性の子宮頸がん予防・啓発に向けたピアサポーターによる教育支援」の研究分担者として、取り組んでいく。 *昨年度、養護教諭を対象とした「子宮頸がん予防・啓発活動に関する調査」について、第28回日本がん看護学会学術集会で示説発表したが、その内容をまとめ、学会誌への論文投稿を計画している。論文作成にあたっては、学内の小林教授による論文作成ワークショップに参加し、学内の教員との交流、ディスカッションも参考にした。 *今年度も引き続き、福岡県立大学との共同研究「基盤A」卒後1年目看護師の定着率向上を目的とした広域包括支援プログラムの開発研究」、基盤B「看護系大学における発達障害傾向学生に対するサポートスペクトラム構築に関する研究」の研究分担者として取り組んでいく。 *今年度も引き続き、日本がん看護学会の専任査読委員の活動を行う。 *今年度も引き続き、医師部附属病院看護部との看護研究コミュニケーションに関わってきたい。 	0.33	<ul style="list-style-type: none"> *研究代表者として、科研/基盤C「地域住民ボランティア参加型の緩和ケアネットワークモデルの構築」に取り組み、緩和ケアボランティアの養成プログラム作成に向け、緩和ケア病棟で活動しているホスピスボランティアを対象としたインタビュー調査の質的分析、ならびに視察協力者である友愛会南部病院緩和ケア病棟看護部長(小橋川初美氏)と広島県緩和ケア支援センターの緩和ケアボランティア養成講座の視察を行った。それらの成果を踏まえ、10月、友愛会南部病院にて第1回緩和ケアボランティア養成講座を開催し、7名の受講生があった。現在、そのうち5名の方がボランティアとして登録、活動をしており、活動に関する評価として、3月にその方々を対象としたインタビュー調査を実施する予定である。 *前述したホスピスボランティアを対象としたインタビュー調査の質的分析の結果について、第29回日本がん看護学会学術集会(2015.2.28-31横浜)でポスター発表を行う。 *「養護教諭を対象とした子宮頸がん予防・啓発活動に関する調査」の英語論文作成にあたって、小林教授より頂いた助言をもとに、現在、論文作成中である。 *福岡県立大学(松浦賢長教授)が代表を務める科研/基盤A「卒後1年目看護師の定着率向上を目的とした広域包括支援プログラムの開発研究」の研究協力者として、今年度も3月29日(日)に県内10施設の新入看護師30名を対象に、ファシリテーター(臨床看護師)の協力も得ながら、「シミュレーション教育による看護支援(急患対応)セミナー」の開催を計画しており、その事前調整、運営を担当する。 *昨年、新人看護師を対象に実施した看護技術支援の成果について、第19回日本看護研究学会九州・沖縄地方学術集会(11月7日熊本)にてポスター発表を行った。フロアと活発な意見交換ができ、シミュレーションを活用した新人教育に対する関心の高さがうかがえた。(本会場については1月の保健科学研究会でも発表し、学内へ大学間連携事業に関する情報発信の機会になったと考えた。) *防衛医科大学校(安藤史子教授)が代表を務める科研/基盤B「看護系大学における発達障害傾向学生に対するサポートスペクトラム構築に関する研究」の研究協力者として、当学科での本研究の進め方について、当該分野の教授と検討中である。 *日本がん看護学会専任査読委員の活動として、日本がん看護学会誌に投稿された原稿論文1件の査読、ならびに第29回日本がん看護学会学術集会における演題8件の査読を担当した。 *附属病院看護部との看護研究ユニフィケーションでは、8西病棟スタッフが取り組んだ看護研究の支援に関わり、2月に開催される第29回沖縄県看護研究学会にて口頭発表を行う(共同演者)。
社会貢献	0.30	<ul style="list-style-type: none"> *今年度も8月30日(土)、琉球大学公開講座「がん患者・家族を癒す緩和ケアの実践」を開催するが、その調整・企画・運営(共催するおもろまちメディカルセンターとの調整、当日の進行等)を担当する。 *九州がんプロ養成基盤推進プランの一環として、臨床看護部を対象とした後学期開講の「がん看護エキスパートナース養成コース」の講義を担当する。 *今年度も昨年度に引き続き、大学間連携共同教育推進事業「多価値尊重社会の実現に寄与する学生を養成する教育共同体の構築」の琉球大学の担当者として、統一部・研修調整部会、キャリア像確立部会に参加し、具体的な事業展開に関わっていく。 *今年度も引き続き、「ケアリング・アライド九州沖縄大学コンソーシアム」事業の琉球大学の担当者として、九州の看護系大学との交流、またその活動の一環として、放送大学の国家試験問題解説に関わる。 	0.32	<ul style="list-style-type: none"> *8月30日(土)、おもろまちメディカルセンターとの共催にて、琉球大学公開講座「がん患者・家族を癒す緩和ケアの実践」を開催した。その事前調整・運営を担当し、約50名の一般市民の参加者があった。 *11月より開講した「がん看護エキスパートナース養成コース(九州がんプロ養成基盤推進プラン)」のシラバス作成、非常勤講師との調整、運営を担当した。臨床看護師9名が受講しており、コミュニケーション(意思決定支援)、高齢患者のエンド・オブ・ライフ・ケア、悲嘆・喪失ケアに関する講義・演習を担当した。 *大学間連携共同教育推進事業「多価値尊重社会の実現に寄与する学生を養成する教育共同体の構築」では特徴科目の相互受単位互換のシステム化に向けて、教務係と共に取り組んでいる。その他、ナースキャリアカフェ事業、国際看護に関する学生の短期研修やオンラインで講義実習の取組にも関わった。 *「ケアリング・アライド九州沖縄大学コンソーシアム」の取組みの一環として、放送大学の国家試験問題解説に関わった。 *今年度11月、当分野の教授が学術集会長となって、第20回日本看護研究学会九州・沖縄地方学術集会を開催することが決定した。その企画・実行委員長(事務局)を担当することとなり、11月第19回学術集会の視察を行い、12月に第1回企画委員会を開催した。 *沖縄県看護協会が開催する沖縄県看護研究学会の学会委員として推薦を受け、今年度より担当することとなった。2月の学会開催に向けて、その準備・運営に定期的に取組んでいる。
管理運営	0.00		0.02	<ul style="list-style-type: none"> *当学科看護コースのオープンキャンパス担当者として、計画から当日の運営、学生への協力呼びかけ、慰労会開催等に携わった。教職員、学生の協力のもと、当日の運営もスムーズに行われ、参加者は612名と過去最高であった。アンケートでは、保健学科で学ぶ内容が理解できた、将来に向けてモチベーションがUPした等の意見が多く聞かれ、好評であった。 *センター試験監督を2日間わり担任し、滞りなくスムーズな監督業務が遂行できた。
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> *ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 *記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 *診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 	1.00	<ul style="list-style-type: none"> *ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。			<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		古謝 安子	所 属		医学部 保健学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果		
教育	0.35	在宅・慢性期看護分野の専門性と実践力養成が教育目標であり、自己学習を促す課題レポートを工夫し、学生の吸収力の差を鑑みた積極的な意見聴取と学習相談の時間確保を図り改善する。卒業研究指導においては実践現場との交流連携で学生の専門職者意識を高め、院生のTA活用で授業・実習補助を通じた資質向上を図る。			0.35	教務委員会で部局の目標に照らした看護学コース学習目標を修正し、授業評価項目を授業改善に反映できる内容に改めた。授業では、事前学習で理解を促し、その成果を活用した授業運営で他学生の視点を学んだ学生から積極的な意見が聴取された。卒業研究成果は学生の専門職意欲を高め、授業への反映で次年学生に実践現場の理解を深められた。Best of lecturer 公開授業を実施し授業方法への工夫に評価が得られた。		
研究	0.30	国内外学会での発表や論文投稿を行い、学会の査読や座長等を積極的に担う。農学・工学・保健学研究科による「長寿社会を支える人材育成プログラム」の初年度であり、運営方法や調査実施体制を整え、学生や院生、地域民生員らと複数離島等で調査を実施する。また、昨年天候不良で実施できなかった離島住民への研究成果還元及び研修会を役場職員との共催で実施する。			0.25	APACPH(マレーシア)、日本在宅看護学会、日本在宅ケア学会での発表、卒業生の発表を支援し多数発表した。運営費交付金による「長寿社会を支える人材育成プログラム」では、計画通り伊平屋村、粟国村、南大東村、渡名喜村での調整後、20歳以上住民悉皆調査を実施し集計分析中である。本学COC事業「島嶼医療における看護職の臨床看護研究能力育成」事業は八重山地区看護師との調整後、基礎調査を実施し集計分析を進めている。		
社会貢献	0.15	本学COC事業で「島嶼医療における看護職の臨床看護研究能力育成」事業に取り組む初年度で、複数の看護系教員で離島看護職の学び直し、看護研究リーダー育成のためのニーズ把握とプログラム作成を行う。また附属病院看護部との研究ユニフィケーションで病棟看護研究を支援する。沖縄県や市町村、看護職能団体において各委員会委員の兼務及び研修講師等の兼業、本学科同窓会役員の役割を担うことで地域社会への貢献を図る。			0.20	日本学術振興会平成27年度科学研究費助成事業の第1段階審査(書面審査)の審査委員として83件審査した。本学COC「島嶼医療における看護職の臨床看護研究能力育成」事業で八重山地区研究支援を実施した。2市町の地域包括ケア体制整備委員会や高齢者福祉計画委員会の委員長を担い参画し、沖縄県看護協会では2委員会、非常勤講師を複数担った。本学科のさくらScience事業で東南アジア学生に講義を行い、琉球医学会の論文審査(2編)、本学科同窓会役員を兼務した。		
管理運営	0.10	医学部教授会や保健学科運営会議に参画し、学科内の委員会活動の役割を担う。また研究科委員会や看護コース会議等では学科・コース内の活性化が図れるよう積極的に参画する。			0.10	医学部教授会、保健学科運営会議に参画し、教務委員会や他委員会(3)の業務役割を積極的に担った。研究科委員会における論文審査(5編)に積極的に関わり、論文の精度向上のため予備審査を規定以上実施した。		
進路指導	0.10	学生の健康相談や進路、就職に関する相談には随時対応する。			0.10	学部学生や大学院生の健康相談、進路相談、就職相談に随時及び時間外にも対応した。		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名前	豊里 竹彦		所属	医学部	
職名	講師		業務ウエイト比(予定)	業務ウエイト比(実績)	
領域	平成26年度 年度目標設定		平成26年度 年度末自己点検結果		
教育	0.30	学部教育では、講義では視聴覚教材の使用やPBLを取り入れるなどして、学生の理解が深まり、主体的に講義に参加できるよう工夫する。 大学院教育では、当該分野の修士研究は勿論、講座間の連携を強化し、他分野の修士・博士研究にも積極的に参加し、研究方法および分析などの教育を行う。	0.30	<ul style="list-style-type: none"> 学部教育では、外来看護実習、慢性期看護実習などの臨地実習や卒業研究に従事し、臨床の場でリーダーシップを発揮できる看護師の育成に携わった。 チェンマイ大学との学術交流に引率し、学部学生が主体的・積極的に交流できるよう支援するとともに、講義の通訳を行い学習の理解が深まるよう援助した。 大学院教育では、研究デザインや解析方法など大学院前期・後期課程の院生に個別指導を行った。また、前期課程の院生の要望で研究学習会を開催し、各研究に対しての討議およびコメント・アドバイスをを行った(院生7名参加)。 附属病院と島嶼地域の看護研究ユニファイケーションに携わり、臨床看護師の研究指導を行い、臨床研究の向上に寄与できた。 以上より、教育目標は達成できた。 	
研究	0.30	平成26年度科学研究費補助金(若手研究 B)「地域住民の心身の健康とソーシャル・キャピタルとの関連及び地域支援介入モデルの構築」の研究代表者として、地域住民の健康サービスに実践・応用できるようなケア・システム構築に努める。また、その他の外部資金(1件)の獲得及び国内学会誌への投稿(2件)、国外学会での発表(1件)を目指す。	0.30	<ul style="list-style-type: none"> 平成26年度科学研究費補助金(若手研究 B)「地域住民の心身の健康とソーシャル・キャピタルとの関連及び地域支援介入モデルの構築」の研究代表者として、その成果がRyukyu Medical Journal (First author)に掲載された。 上記以外に、原著論文1編(共著者)がRyukyu Medical Journalに掲載された。 看護研究および保健学研究を7演題(国内)と4演題(国外)を発表した。 大学COC事業「ちゅら島の未来を創る知の津梁」、特別経費(地域貢献機能の充実)および琉球大学女性研究者支援研究費を共同研究者として獲得した。 以上より、研究目標は達成できた。 	
社会貢献	0.20	ED研究会の世話人として、こころとからだの健康について地域への啓蒙活動や生涯学習の向上に努める。	0.20	<ul style="list-style-type: none"> 沖縄ED研究会世話人として、講演会の企画・運営に携わり、こころとからだの健康について地域への啓蒙活動や生涯学習の向上に努めることができた。 西原町介護認定審査会委員を務めた。 うるま市高齢者福祉計画・第6期計画 査定委員の委員長を務めた。 ストレスマネジメント学会の査読を務めた。 以上より、社会貢献目標は達成できた。 	
管理運営	0.10	オープンキャンパス(OC)実行委員として、保健学科の理念・戦略・使命が広く普及できるよう計画を実行する。	0.10	<ul style="list-style-type: none"> OC実行委員として、保健学研究科の理念・戦略・使命が広く普及できた。 機器購入ワーキンググループの一員として、全学の運営に携わった。 国立大学改革基盤強化促進費の仕様策定委員会委員として運営に携わった。 以上より、管理運営目標は達成できた。 	
進路指導	0.10	看護師としての臨床経験や大学の教員としての経験を生かし、講義、実習や普段の学生との交流の中で就職や進学への助言や情報提供を行う。また、看護協会などからの進学や就職の情報は、積極的に学生に提供する。	0.10	<ul style="list-style-type: none"> 看護師としての臨床経験や大学の教員としての経験を生かし、講義、実習や普段の学生との交流の中で就職や進学への助言や情報提供を行った。相談内容と件数は、在校生では進路相談が4件、対人関係の悩みが1件、卒業生は進路相談が1件、職場での対人関係の悩みが2件であった。 以上より、進路指導目標は達成できた。 	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。			<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前		大嶺 ふじ子		所 属		医学部保健学科
職 名		教授		業 務		保健学科
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト 比(実績)	平成26年度 年度末自己点検結果	
教育	0.40	助産学必修科目(周産期学,助産の理論,ウイメンズヘルス,助産管理,助産診断技術学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ,助産実習Ⅰ・Ⅱ,助産統合実習計28単位)を担当し、助産学実践力教授活動自己評価尺度の基準を満たす講義・実習を行う。助産実習Ⅰにおける妊娠中から産褥期までの継続事例への関わりを学生とともに7月～12月まで実施する。学部生10名の卒業研究として、あらゆるライフステージにある女性とその家族に対し、地域や施設において研究調査を実施する。卒業直前技術演習に協力し、学生の就職前技術指導を行う。大学院前期課程2名の授業・研究に計画的に関わる。ラオス健康科学大学との大学間連携に参加、大学院生とともに助産師の資質向上のための助産師教育技術提供プログラムに関わる。		0.40	助産学必修科目(周産期学・助産の理論・ウイメンズヘルス・助産管理・助産診断技術学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・助産実習・助産統合実習計23単位)を担当し、助産学実践力教授活動自己評価尺度の基準を満たす講義・実習を行った。特に助産実習においては妊娠中から産褥期までの継続的な関わりを学生とともに7月より3か月間実施した。4年次6人、3年次4人計10名の卒業研究として、妊産婦の調査等を学校や病院施設において実施、研究指導した。卒業直前技術演習に協力し、学生の就職前技術指導を行った。大学院前期課程2名の授業・研究に計画的に関わり1名の修了生を出した。平成27年度において、助産師・保健師教育の学部教育から大学院への移行をめざし、申請時資料として必要な卒業生・勤務看護職への大学院へのニーズ調査・出口調査を全国的に実施した。	
研究	0.20	あらゆるライフステージにある女性とその家族に対する調査を地域や施設において実施する。これまでの調査結果を研究論文(現在2編投稿中)としてまとめ、学会誌採択を目指す。平成24年度採択文部省科学研究費助成基盤研究C「開発途上国における日本型助産技術研修の継続的開催及び受講者情報システム構築の研究」の3年目の研究体制を維持し、引き続き、27年度科研費採択を目指す。ラオス健康科学大学との大学間連携に参加、大学院生とともに助産師の資質向上のための助産師教育技術提供に関わり、助産師の資質向上のための技術提供プログラム策定のためのプロポーザルを作成、調査研究の足掛かりとする。		0.20	原著論文「臍帯結紮時期が成熟児の胎外環境適応過程に及ぼす影響」が母性衛生56巻1号, 2015に、Characteristic features of sleeping habits of 3-years-old infants in Okinawa, Japanが琉球医学雑誌 Vol.33, No.1, 2015に受理された。平成24年度文部省科学研究費助成基盤研究C「開発途上国における日本型助産技術研修の継続的開催及び受講者情報システム構築の研究」の3年目の研究を総括・まとめとして、JICA&琉球大学のプロジェクト「南スーダン戦略的保健人材育成プロジェクト」の助産師現任研修の評価を大学院生とともに実施した。ラオス健康科学大学との大学間連携、文部科学省・サクラサイエンスプランに参加、大学院生とともに助産師の資質向上のための助産師教育技術提供に関わった。ラオス国における助産師の資質向上のための技術提供プログラム策定のためのプロポーザルを作成、27年度科研費採択を目指す。博士後期課程Dマル教員として承認された。	
社会貢献	0.20	ラオス健康科学大学との大学間連携に参加、助産師の資質向上のための助産師教育技術提供プログラムに関わる。平成26年度JICA地域別研修「公衆衛生活動による母子保健強化アフリカ・中南米・ミャンマー地域」の研修講師を努め、助産師の資質向上のための教育事業に関わる。母性看護学、助産コース学生の地域実践力応用としての思春期健康教育を、教員・大学院生とともに県内小中高等学校での出前講座を行う。沖縄県助産師会理事および教育委員として、助産師会会員の資質向上・会発展のための研修企画立案、事業運営、事務連絡等の役割を果たす。日本母性衛生学会評議員・査読委員、日本助産学会評議員としての職責を果たす。		0.10	平成26年度JICA地域別研修「公衆衛生活動による母子保健強化アフリカ・中南米地域」の助産師の資質向上のための教育事業に研修講師として3回参加した。母性看護学、助産コース学生の地域実践力応用としての思春期健康教育を、教員・学部学生・大学院生とともに県内小中高等学校での出前講座を1校で行った。平成26年度採択科学技術振興機構(JST)日本・アジア青少年サイエンス交流事業(さくらサイエンスプラン)に参加し、タイ・チェンマイ大学、ラオス健康科学大学、フィリピン公衆衛生大学の教員・学生との学術教育交流(助産師教育の歴史・展望を講義・助産所見学)を行った。沖縄県助産師会理事および教育委員として、助産師会会員の資質向上・会発展のための研修企画立案、事業運営、事務連絡等の役割を果たした。日本母性衛生学会評議員・査読委員としての職責を果たした。	
管理運営	0.10	保健学科教務委員長として、会議の議長をつとめ、職責を果たす。保健学科学務委員会委員の職責を果たす。琉球大学国際沖縄研究所運営委員会委員としての職責を果たす。指定規則改正後の助産師・保健師カリキュラムの各講義内容・単位変更の留意点を学生や各実習施設に説明しスムーズなカリキュラム移行をめざす。		0.20	保健学科教務委員長として会議の議長をつとめ、大学認証評価等における自己点検評価における記述職責を果たした。保健学科学務委員会委員、琉球大学国際沖縄研究所運営委員会委員としての職責を果たした。指定規則改正後の助産師・保健師カリキュラムの各講義内容・単位変更の留意点を学生や各実習施設に説明しスムーズなカリキュラム移行をめざした。	
進路指導	0.10	教務委員長として、学部教育の履修・進路指導に関わる。助産師コース選択学生4年次5人、3年次4人および大学院前期課程2人の指導教員として、オフィスアワーを随時設定、各学生の身体的・精神的健康に留意、適性な単位取得を確認、学習意欲を促進できるような指導を行う。就職支援に関する情報をその都度、時期を失しないよう提供する。H24～指定規則改正後の助産師カリキュラムの各講義内容・単位変更の留意点を助産学生や各実習施設に説明しスムーズなカリキュラム移行をめざす。		0.10	助産師コース選択学生4年次5人、3年次4人および大学院前期課程2人の指導教員として、オフィスアワーを随時設定、各学生の身体的・精神的健康に留意、適性な単位取得を確認、学習意欲を促進できるような指導を行った。就職支援に関する情報をその都度、時期を失しないよう提供した。H24～指定規則改正後の助産師カリキュラムの各講義内容・単位変更の留意点を助産学生や各実習施設に説明しスムーズなカリキュラム移行をめざした。	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		遠藤由美子	所 属		医学部保健学科
職 名				准教授	
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果
教育	0.35	1.母性看護学、助産学における教育方法の検討 わかりやすい講義、実習内容の工夫 (講義日程、資料、教授方法の工夫) 2.卒業研究における教育法の工夫(演習の運営方法) 3.大学院生(前期課程)への研究指導補佐 (研究計画、倫理審査準備、論文作成の補佐) 4.小児看護学教育への協力(講義分担任当) 5.臨床看護技術に関する教育への協力(演習分担任当)		0.34	1.図を効果的に用いた資料の提示法を工夫した。グループワークや事例学習を積極的にを行い、看護過程が理解できるよう工夫した。 母性看護実習では、実習前のレディネス状況に応じた個別指導を行った。 評価表を用いた実習後学習目標達成状況の客観評価に努めた。 助産実習では、安全管理を意識しながら助産過程が理解できるよう個別指導を行った。両実習共、学生の看護・助産実践力を養えるような実習の進め方を病棟指導者とともに検討し、実施した。 2.ゼミを定期開講し、文献抄読と並行して研究概論やプレゼンテーション法の演習を行い、論文作成やプレゼンテーションのポイントについて教授した。 3.大学院生(前期課程)へは、大学院指導教員を補佐し、研究計画や発表、論文作成を補佐した。 4.小児看護学の講義を一部担当した。 5.実施に向けた打ち合わせを行い、実施予定である(3.16.17)。
研究	0.35	1.科学研究費による研究の実施 ①基盤C分担任研究者:開発途上国における日本型助産技術研修の継続的開催および受講者情報システム構築 ②基盤C分担任研究者:妊娠・授乳期の食事摂取状況の実態と母乳栄養 継続に関する全国縦断調査) 2.ラオス健康科学大学との共同研究実施 (ラオス国の母子保健水準向上にむけた研究) 3.山形大との共同研究実施 (孫育てに関わる祖父母に関する研究) 4.研究成果の公表(論文、学会発表) 5.平成27年度科学研究費およびその他外部研究資金獲得申請		0.35	1.科学研究費による研究の実施(3件) ①分担任研究者として、結果まとめを補佐した。 ②分担任研究者(山形大との共同研究)として調査を行った。 ③平成26年度採択基盤C(女子大学生の月経・基礎体温を利用した生活習慣・食習慣改善プログラムの構築)分担任研究者として研究計画立案と実施を補佐した。 2.3.共同研究実施 本年度は研究計画をすすめられなかった。 4.研究成果の公表 学会発表 国外(筆頭1、共同1)、国内(筆頭2、共同2)の発表を行った。 論文発表 (原著共同4、報告書分担任筆頭1)を行った。 5. 外部資金獲得に向けた活動 科学研究費の採択はならなかったが、学内研究費(女性研究者支援研究費:研究代表)および大学COC事業(ちゅう島の未来を創る知の津梁(かけ橋):研究分担任)に採択され、進行中である。 平成27年度科学研究費の申請を行った(1件)。
社会貢献	0.15	1.琉球大学附属病院院内看護部研修企画・運営支援(看護研究) 2.琉球大学医学部附属病院看護部看護研究の個別指導 3.オープンキャンパスの運営支援(母性看護・助産学分野の紹介) 4.第13回日本遺伝看護学会事務局の運営		0.20	1.2.院内研修(看護研究)の企画、運営支援を行った。附属病院看護部の1部門2課題の看護研究を担当し指導中である。研修講師を務めた。定期的に附属病院看護研究支援委員会メンバーと研究支援ゼミを実施している。 3.母性看護・助産学分野の紹介を行った。 4.日本遺伝看護学会事務局で学会を運営した(2014.10)。 5.さくらサイエンス事業において、研修と施設視察を補佐した(2015.1)。 6.大学COC事業において、八重山地域における事業を計画、実施した。
管理運営	0.07	1.生涯学習教育研修センター委員会への参画 2.附属図書館学術情報基盤整備、運営委員会への参画 3.資料館(風樹館)運営委員会への参画		0.07	1.生涯学習教育研修センター委員会への参画 2.附属図書館学術情報基盤整備、運営委員会への参画(1~2回/月) 3.資料館(風樹館)運営委員会への参画 4.学生支援委員会への参画
進路指導	0.08	1.助産選択希望および助産選択学生に対する進路相談、指導の実施 2.指導教員(4年生)としての学生支援 (履修指導、進路やその他相談の実施)		0.04	1.助産選択希望および助産選択学生に対する進路相談、指導を行った。 2.指導教員として、担当学生の履修指導、進路等の相談を行った。
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		玉城陽子	所 属		医学部 保健学科
職 名				助教	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果
教育	0.40	1.周産期学(8回)、母性看護実践学(演習3回、講義1回)、母性看護学(演習2回)、助産診断・技術学Ⅰ(講義1回)、助産診断・技術学Ⅱ(講義5回)を担当 視覚的な教材を用いて理解しやすいように工夫する。 2.助産診断・技術学Ⅱの科目担当 シミュレーション教育を取り入れて演習を実施する。(特に分娩期にロールプレイを導入する) 3.助産実習 6月より実習調整を開始、7月より継続症例の妊婦健診での外来実習を開始、10月・11月病棟での実習を実施。長期の実習であることから、学生の健康の自己管理についても指導をしていく。 4.卒業研究Ⅱの登録学生2名を指導 5.前期課程大学院生への研究指導補佐 6.臨床看護技術の統合への演習協力	0.40	1.周産期学(8回担当)においては、模型を多用し理論だけでなく視覚的にもイメージしやすい講義を実施した。母性看護実践学(演習3回、講義1回担当)、母性看護学(演習1回担当)では、病棟実習の経験の少ない学生に実際の臨床場面で使用している物品等の映像を取り入れた講義資料を活用した。演習に関してはシミュレーターを活用し母性看護における基本的な看護技術の習得に力を入れた。 2.助産診断・技術学Ⅱでは、事例を用いたシミュレーション教育を実施し、模型やシミュレーターを活用して実践的な演習を行った。今年度より超音波診断を講義に取り入れ、シミュレーションセンターにて演習を行った。今後も学内ではできない演習をセンターを活用して補っていきたい。 3.助産実習では、臨床指導者とともに学生個々の到達度に即した指導を実施した。今年度は分娩件数に偏りがあり、1施設にて実習を1週間延期したが、学生も体調を崩すことなく実習を終了することができた。 4.卒業研究Ⅱでは学生2名を指導し、研究方法から発表・論文作成までの学部学生として学ぶべき基本的な研究指導を実施した。 5.前期課程大学院生への研究指導補佐として、データ分析に必要な統計学の指導を主に担当した。 6.臨床看護技術の統合への演習では、技術項目を1つ担当した。	
研究	0.40	1.「出生体重と母体の栄養摂取状況」に焦点をあてて研究している。分析後博士論文として投稿する。 2.科学研究費助成(基盤C)による研究の実施:「女子大学生の月経・基礎体温を利用した生活習慣・食習慣改善プログラムの構築」 3.ラオス健康科学大学との共同研究	0.40	1.出生体重と妊娠期間からの栄養摂取状況との関連について分析した。10月に46th APACPH Conferenceにて発表し、12月には保健科学研究会にて発表した。1月現在論文執筆中であり、3月に投稿予定である。 2.科学研究費助成(基盤C)「女子大学生の月経・基礎体温を利用した生活習慣・食習慣改善プログラムの構築」については、8月に本学疫学研究倫理審査委員会にて承認され、調査を実施している。 3.ラオス健康科学大学との共同研究は今年度は計画段階で実施まではいかなかった。来年度の課題としたい。 4.オムロン株式会社応用開発センターの受託研究を受け入れ、「月経周期における基礎体温の変動に関する研究」を実施した。	
社会貢献	0.10	1.沖縄県助産師会の研修への協力 2.全国助産師教育協議会の機関会員・個人会員として、他大学と協力しながら助産師教育の質の向上と、教育課程について検討していく。 3.母性衛生学会沖縄県支部の事務局を担当	0.10	1.沖縄県助産師会の研修運営に協力した。 2.全国助産師教育協議会の総会に参加し、大学院教育を実施している機関より情報収集を行い、申請する上での事前調査についてのアドバイスを受け現在準備中である。 3.母性衛生学会沖縄県支部の事務局を担当した。 4.オープンキャンパスの看護コース代表担当は来年度に変更になった。 5.琉球大学附属病院看護部への研究指導として、シエントの院内看護研究発表、整形外科病棟の院外への看護研究発表に向けての指導を実施した。	
管理運営	0.00		0.05	「さくらサイエンスプラン 海外青少年招聘プログラム」実行委員として、打合せ会議に出席し、分野担当として母子未来センター施設見学を計画・実施した。	
進路指導	0.10	卒業生の現在の動向を踏まえて、助産選択学生を含めた看護コース学部学生への就職・進学のための情報提供を実施する。 卒業生への大学院進学情報を提供し、社会人入学への進学指導を実施する。	0.05	助産学生4年次への就職相談を行った。 助産を選択した卒業生および助産師会会員に対して大学院進学への情報提供を行った。	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。			<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		辻野 久美子	所 属		医学部 保健学科 小児看護学分野
職 名		教授		業 務 ウェイト比 (実績)	
領域	業 務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		平成26年度 年度末自己点検結果	
教育	0.40	<ul style="list-style-type: none"> ・学科・研究科の基本理念、看護学教育目標を基盤とし、学部教育においては、学生が看護職者に必要な知識・技術を習得し、資質の向上が図れるように教授法を工夫する ・大学院の授業はゼミ形式とし、学生が自主的に小児看護学を学び、理解が深まるようにサポートする ・最終学年の博士前期、博士後期課程の学生(各1名)が、課程を修了できるように、論文作成を指導する ・新規の後期課程学生に研究指導を行う 		0.40	<ul style="list-style-type: none"> ・目標を達成できた。 ・学部教育については昨年に引き続き、学生主導のプレゼンテーションや演習を実施し、学生評価も概ね良好であった。大学院博士前期課程の授業については、今年度は登録者がいなかった。後期課程では前年度同様オムニバス形式の共通科目の講義を担当し、専門分野の知識を教授した。 ・卒業研究指導を7名に、卒業研究発表指導を3名に、修士・博士論文研究指導をそれぞれ1名ずつに実施した。
研究	0.40	<ul style="list-style-type: none"> ・学会誌への投稿を行う ・国際・国内学会において研究成果の報告・発表を行う ・外部資金の獲得に積極的に努める(科研費、厚労科研補助金、学内助成金他) ・他大学と共同研究を実施する 		0.40	<ul style="list-style-type: none"> ・目標はほぼ達成できた。 ・英文原著論文1編を投稿中である。 ・2つの国際学会で3編、3つの国内学会で5編、研究発表を行った。 ・科研費1件の助成を受けた(研究分担者)。 ・研究代表者として科研費助成事業に応募したが、採用に至らなかった。助成金獲得に向けてさらなる努力が必要である。 ・山口大学(新規1件)・日本赤十字秋田看護大学(継続1件)の教員と、遺伝看護の協同研究を実施中である。 ・質的研究の分析手法、修正版グラウンデッドセオリアプローチ(M-GTA)の「沖縄地方研究会」を立ち上げ、代表に選出された(2015年1月、実行委員は本学科教員および沖縄県立看護大学教員)
社会貢献	0.09	<ul style="list-style-type: none"> ・地域における関連部署、担当者と連携を図る ・講演等の要請があれば、積極的に応じる ・「沖縄県発達障害児(者)看護を推進する会」の月例会を継続して企画し、「発達障害児の親の会」との連携を強化する ・質的研究の分析手法、修正版グラウンデッドセオリアプローチ(M-GTA)の「沖縄県地方研究会」を、学内に発足させる(秋予定) ・第13回日本遺伝看護学会学術大会を、会長として本学で開催する 		0.09	<ul style="list-style-type: none"> ・目標を達成できた。 ・「沖縄県発達障害児(者)看護を推進する会」設立に向け、昨年に引き続き、自閉症児の保護者、教員、学生による勉強会を月1回継続実施している。 ・「沖縄県自閉症親の会」の副会長(賛助会員)として、会の運営に協力した。 ・質的研究の分析手法、修正版グラウンデッドセオリアプローチ(M-GTA)の「沖縄地方研究会」を立ち上げ、代表に選出された(2015年1月、実行委員は本学科教員および沖縄県立看護大学教員)。 ・第13回日本遺伝看護学会学術大会の会長として、会を企画運営し、本学で開催した(参加者152名)。 ・沖縄県母子寡婦福祉連合会主催「第一回子育て支援員養成講座」の講師として講義を行った(3時間、受講者26名)。
管理運営	0.09	<ul style="list-style-type: none"> ・分野の長としての責務を果たす ・学部予算委員会、学科内入試委員会他、任命された委員会における責務を果たす 		0.09	<ul style="list-style-type: none"> ・目標を達成できた。 ・所属分野長としての責務を果たした。 ・予算委員会・入試委員会・博士後期課程論文資格審査委員会委員の責務を果たした。 ・所属分野の長として、所属内同僚の研究・論文指導を行い、論文投稿に繋ぐことが出来た。
進路指導	0.02	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて、学生指導・相談に臨む ・進学、就職の個別相談に応じる ・必要に応じて推薦書を作成する 		0.02	<ul style="list-style-type: none"> ・目標を達成できた。 ・学生指導・相談の役割を果たした。 ・進学、就職の個別相談に応じ、アドバイスをを行った。
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		小林 潤	所 属		保健学科 国際地域保健学	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果		
教育	0.30	昨年度導入した大学院・学部教育の参加型学習法をさらに拡大し、保健医療の現場でリーダーとして推進するための考える力をつけさせる。さらに国際保健の海外フィールドを使った大学院・学部教育を導入し、研究事業やJICA研修事業と大学院教育をリンクさせより実践的教育と研究指導の両立体制を確立する。学生支援委員長としてリスクマネジメントの現状分析とそれによる対応を行う。			0.35	国際保健関連の講義だけでなく、保健福祉政策論においても参加型学習法を導入し学生の考える力を伸ばせたとともに、海外協定3大学との合同授業を1年次3年次と実施したことは学生のモチベーション向上につながった。大学院の教育については想定どおりに遂行できた。また学生支援委員長としてリスクマネジメント体制の構築がなされ今まで大きな事故等はみられていない。また一年次教員として教員間ネットワークの強化によって学生のモチベーション向上につながった。		
研究	0.30	継続6課題(科研2課題、厚生科研1課題、国際医療研究開発費3課題)について、研究の推進と研究の公表を図る。その上で国際保健政策・開発途上国の政策への還元を試みて社会実装を拡充させる。分担研究者として担当するJST2課題(ケニア・ラオス)について現地研究体制を確立し、研究を開始する。フィリピン災害関連研究(JST、上原基金)をアクションリサーチとして開始し、社会実装と研究アウトプット産出を語る。			0.25	2014年には原著論文6編を発刊できた。想定以上の研究アウトプットが創出できた。しかしながら研究8課題を遂行しているため、各研究課題の推進に支障がでているのが現実である。学科外、大学外の協力体制に頼っているのが現実であるため、研究実施体制の再構築を大学院教育も含めて再考が必要と考えている。		
社会貢献	0.17	国際学校保健コンソーシャム理事長として、学校保健政策への還元を図るとともにシンクタンク機能を拡大させる。NPO法人JAMの代表としての難民支援を継続支援するとともに関連人材育成をはかる。上記活動と熱帯医学会・国際保健医療学会の活動・JICA研修事業をリンクさせて、琉球大学学生へ情報提供をも進める。			0.17	大学院教育とJICA事業の連携に大きな成果を収めた。国際学校保健コンソーシャムとしては、アジア地域ネットワーク強化とアジア地域ステートメントのドラフト作成の完了、若手人材の育成と国連機関への輩出に成果を得ている。熱帯医学会は国際ネットワーク強化に成果をえて国際委員長(6年間)の責務を果たした。今後は委員として協力する。NGO活動は事務局を沖縄に写し法人化を行った。これら活動は学部生・大学院生教育とリンクして行っている。		
管理運営	0.20	学部学生・大学院生の海外研究の実施につきマネジメント体制(共同研究・倫理・安全等)を確立する。国際保健関連機関・海外協力機関とのネットワークを強化し、研究の実施、学生の派遣・受け入れを組織化推進する。また看護コース若手教員の研究支援体制をつくり、研究実施環境づくりを開始する。			0.20	学生の海外研究体制作りには一定の成果を得て、共同研究が開始されている。また教室を超えた指導体制を提案し、若手看護系教員に対するコンサルテーションを実施し、数名の研究推進支援が成功したと自負している。今後はこれらの経験をより発展させアウトプットをだすため、システム化するか自発的ムーブメントを作成していくか検討が必要であると考えている。		
進路指導	0.03	昨年度開始した国際保健分野を志望する学生のコンサルテーションを継続し大学院生にも拡大させ、適切な進路選択を促す。卒業時の指導だけではなく、学習機会と進路指導をリンクさせる。			0.03	就職説明会を学生支援委員会の協力のもと開催をし一定の成果を得た。また国際保健分野志望学生のコンサルテーションを随時おこなっている。大学院生については適切な対応ができています。しかしながら学部学生には学科の留学等の支援体制構築が急務になったと分析され検討を提案したに留まっている。		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		與古田 孝夫	所 属		医学部保健学科
			職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果
教育	0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚教材、研究業績を活用した授業展開 ・TA(Teaching Assistant)による授業補助及び授業法の教授、研究指導法について助言 		0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容に応じて関連する視聴覚教材を活用するなど、学生の興味関心をひく授業展開を心がけた。授業内容に関連するものについては、研究で得られた知見を提示した。指導する大学院前期課程1年次学生1名をTAとして活用し、授業法の教授並びに研究指導法について助言を行った。 ・開講授業の評価は、前期の精神看護学87.5点であり、教育領域の目標は達成できたと考える。
研究	0.40	<ul style="list-style-type: none"> ・助教・大学院学生を含む研究論文の投稿、発表 ・助教・大学院学生を含む関連学会への成果発表 		0.40	<ul style="list-style-type: none"> ・原著論文1編(共著)が原著論文として学術誌に受理され、国際学会において3演題の発表を行った。 ・科学研究費補助金基盤研究(C)(代表):地域高齢者のスピリチュアリティとその影響要因および生きがい感に関する調査研究、平成26年度 特別経費(代表):長寿社会を支える人材育成プログラムによる調査研究、平成26年度琉球大学COC事業:「島嶼医療における看護職の臨床看護研究能力育成」(分担)による調査研究、平成26年度琉球大学研究プロジェクト支援事業(女性研究者支援研究費):パートナーシップによる臨床看護研究能力獲得のための革新的・戦略的プログラム構築に向けた予備的研究(分担)による調査研究 以上の研究成果発表及び外部獲得資金による調査研究等、研究領域の目標は達成できたと考える。
社会貢献	0.15	<ul style="list-style-type: none"> ・学外審査会委員活動 ・学術集会における講演・研究会活動 ・教育機関への教育支援 		0.15	<ul style="list-style-type: none"> ・琉球大学医学部附属病院、県立八重山病院、医療法人かりゆし病院の看護研究の研究会講師および研究指導を行った。 ・西原町及び中部広域連合の介護認定審査会委員を務めた。 ・西原町障害者介護給付認定審査会の委員長を務めた。 ・沖縄県介護審査会委員を務めた。 ・医療法人おもと会沖縄リハビリテーション福祉学院非常勤講師として、人間発達学の講義を担当した。 以上の活動により、社会貢献領域の目標は達成できたと考える。
管理運営	0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・全学及び所属部局における委員会活動 ・所属学科等の管理運営活動 ・入試関連業務活動 		0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・保健学研究科学務委員長、男女共同参画委員会委員、全学大学院委員会委員を務めた。 以上のことより、管理運営に係る目標は達成できたと考える。
進路指導	0.05	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導・就職支援に向けた学生指導 		0.05	<ul style="list-style-type: none"> ・2年次指導教員として学業及び進路・就職等、学生生活全般にわたる指導・助言を行った。 ・学生・院生の進路指導、就労支援に関して指導・助言を行なった。 以上のことより、当該の目標は達成できたと考える。
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。			<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前		高原 美鈴	所 属	医学部保健学科精神看護学分野	職 名	助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果	
教育	0.40	<ul style="list-style-type: none"> 臨床実践を踏まえた授業ならびに実習指導 卒業研究・院生の研究指導 		0.20	<ul style="list-style-type: none"> 授業内容に関しては、これまでの臨床実践経験をふまえ、演習形式の授業を行った。 実習指導においては、安心・安全に学習できるよう実習先との連絡調整を行い取り組んだ。 卒業研究・院生の指導を行った。 	
研究	0.40	<ul style="list-style-type: none"> 公的研究助成金の獲得 大学院生との協同による論文投稿 国内外の関連学会への成果発表 		0.40	<ul style="list-style-type: none"> 原著論文1編(共著)が学術誌に受理され、国際学会において3演題(共著)の発表を行った。 平成26年度琉球大学COC事業:「島嶼医療における看護職の臨床看護研究能力育成」(分担)による調査研究、平成26年度琉球大学研究プロジェクト支援事業(女性研究者支援研究費):パートナーシップによる臨床看護研究能力獲得のための革新的・戦略的プログラム構築に向けた予備的研究(分担)による調査研究を行った。 	
社会貢献	0.05	<ul style="list-style-type: none"> 附属病院看護部との看護研究ユニフィケーションへの参画 		0.30	<ul style="list-style-type: none"> 琉球大学医学部附属病院、県立八重山病院、医療法人かりゆし病院の看護研究の研究指導を行った。 	
管理運営	0.10	<ul style="list-style-type: none"> 学内委員会活動 入試関連業務における貢献 		0.05	<ul style="list-style-type: none"> オープンキャンパスの企画・運営に関わり、参加した。 センター試験監督の業務を遂行した。(八重山高校) 	
進路指導	0.05	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導・就職支援に向けた学生指導 		0.05	<ul style="list-style-type: none"> 学生・院生の進路について、指導・助言をおこなった。 	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		平井 到	所 属		医学部保健学科病原体検査学分野	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果		
教育	0.30	講義・実習においては、積極的な学習姿勢を涵養できるよう、学生との対話を増やす仕組みを設ける授業展開をすすめる。			0.30	おおむね目標は達成できたと考えられる。授業においては学生を偏りが無いように当てて多くの質問を投げかけるなど様々な点について考えをめぐらすように心掛けた。		
研究	0.30	日本学術振興会の科学研究費の獲得、複数の論文投稿、国際、国内学会での発表を行う。各種外部資金の獲得にむけ研究提案を行う。			0.30	来年度以降の科学研究費獲得に向け複数(研究代表者として2課題、研究分担者としても複数)の申請を行った。また、これまで本年度中に1編の論文が掲載され、その他論文は審査中となっている。国際学会の発表1回、国内学会の発表3回などであり、目標はおおむね達成できたと考えられる。		
社会貢献	0.10	地球規模課題対応国際科学技術協力におけるベトナム研究者への技術移転を行う。			0.10	平成26年9月にベトナム国立栄養院から研究員を1名琉球大学に招聘し共同研究を行い、技術移転を行った。また複数回のベトナム出張時にもベトナム人研究者に同様の技術移転を行った。以上のことから目標は達成されたものと考えられる。		
管理運営	0.10	医学部、医学部保健学科における委員会への積極的な取り組みを行う			0.10	海外出張や講義などによる欠席のほかは積極的に取り組むことができた。		
進路指導	0.20	2年次生の指導教員であるため、卒後自立していかなるものにも取り組める医療人を目的とした学習へ積極的に取り組めるよう、進路指導を行う。			0.20	おおむね目標は達成できたと考えられる。		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		尾尻義彦	所 属		医学部	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果		
教育	0.35	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットWebclass (ICT)による授業の実施 ・学生実習の効率化と充実を図る ・卒業研究の指導 ・公開講座「市民ランナーのためのランニング講座」の実施 ・公開講座「ミニランポリン運動の健康科学講座」の実施 ・出前講座「ディスタンスランニングの科学講座」の実施 			0.25	目標はすべて達成された。		
研究	0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・ミニランポリン運動の医学・生理学的効果に関する研究 ・高齢者の歩行機能回復トレーニングに関する研究 			0.50	目標はすべて達成された。 さらに、「パン酵母由来のグルコポリサッカライド(β グルカン)を添加したもろみ酢飲用が長時間運動による免疫応答および疲労感に及ぼす影響に関する研究」(受託研究)と「沖縄県児童生徒の体格に関する分析的研究」、「一定期間の階段利用による女子学生の体力評価」を実施した。		
社会貢献	0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民を対象としたランニングクラブの運営と指導 ・沖縄リハビリテーション福祉学院における「生理学」の支援 ・今帰仁村におけるスポーツ振興の支援 ・ミニランポリンによる健康運動の啓蒙・普及 			0.20	目標はすべて達成された。		
管理運営	0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・講座連絡会の運営 ・大学入試センター試験監督 ・オープンキャンパスの準備・運営 			0.03	目標はすべて達成された。		
進路指導	0.05	<ul style="list-style-type: none"> ・オフィスアワー等における進路指導 			0.02	目標はすべて達成された。		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		福島卓也	所 属	医学部保健学科	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果	
教育	0.28	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が理解しやすい授業の工夫 ・学生とのコミュニケーションを重視した授業 ・学部生への研究指導 ・保健学研究科学生に対する専門教育 		0.25	<ul style="list-style-type: none"> ・実例を挙げたり、実際の写真を使用して授業に工夫を加えた。 ・4年次学部生の卒業研究指導を行った。 ・博士前期課程2年次学生の修士論文の指導を行い修了した。 	
研究	0.24	<ul style="list-style-type: none"> ・科学研究費補助金によるATL研究 ・厚生労働省科学研究費補助金による分担研究者としての研究 ・論文投稿 ・ATL対策研究拠点構築事業の研究 		0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・科学研究費補助金によるATL研究の2年目を推進した。 ・厚生労働科研によるATL研究を推進した。 ・ATL対策研究拠点構築事業の研究を遂行し、学会発表した ・4本の論文(筆頭1、共著3)を発表した。 	
社会 貢献	0.03	<ul style="list-style-type: none"> ・地域医療機関への診療支援 ・骨髄移植推進財団調整医師としての活動 ・日本血液学会評議員としての活動 ・日本造血細胞移植学会評議員としての活動 		0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・ハートライフ病院、かりゆし病院にて診療支援を行った。 ・日本血液学会評議員として教育講演を行った。 ・日本造血細胞移植学会評議員としてATLワーキングで活動した。 	
管理 運営	0.40	<ul style="list-style-type: none"> ・保健学科長としての仕事 ・保健学研究科長としての仕事 ・医学部広報委員会委員としての活動 ・医学部将来計画委員会委員としての活動 		0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・保健学科長として保健学科の運営に尽力した。 ・保健学研究科長として保健学研究科の研究活動の活性化に尽力した ・医学部内委員会委員として活動した。 	
進路 指導	0.02	<ul style="list-style-type: none"> ・地域検査技師との交流・情報収集 ・検査技師会での講演 ・就職情報の収集 		0.02	<ul style="list-style-type: none"> ・検査技師会、沖縄臨床血液研究会の幹事として活動した。 ・学部生の就職支援を行った。 	
診療	0.03	<ul style="list-style-type: none"> ・医学部附属病院血液内科外来担当 ・血液内科入院患者カンファランスでのアドバイス 		0.03	<ul style="list-style-type: none"> ・第二内科血液内科外来を週1回担当した。 ・9回西病棟血液カンファランスに週1回参加し、アドバイスを行った。 	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		